

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年第4週（1月19日～1月25日）

## 今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

### 定点把握感染症

「インフルエンザ増加、再び注意報レベルを超える」

第4週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,960例であり、前週比24.3%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、水痘、流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.28、1.88、1.16、0.47、0.35である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比23%増の1,161例で、南河内8.93、大阪市南部8.82、中河内7.53、北河内7.26、豊能6.50であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は32%増の347例で、北河内2.91、大阪市南部2.71、泉州2.55である。

RSウイルス感染症は26%増の215例で、大阪市北部2.62、南河内2.60、北河内2.35であった。

水痘は89%増の87例で、三島1.29、大阪市南部0.82、堺市0.71である。

流行性角結膜炎は38%増の18例で、大阪市西部1.50、中河内0.80、泉州0.67であった。

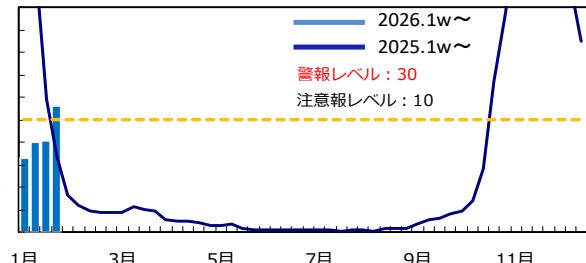
インフルエンザは37%増の3,251例で、定点あたり報告数は11.21である。大阪市西部17.20、北河内13.79、南河内13.48、中河内13.28、泉州11.79である。インフルエンザB型の増加がみられる。

新型コロナウイルス感染症は13%増の220例で、定点あたり報告数は0.76であった。大阪市南部1.19、北河内1.11、大阪市北部・大阪市東部1.00、南河内0.91である。

急性呼吸器感染症（ARI）は、33%増の12,702例で、定点あたり報告数は43.80であった。南河内60.65、中河内54.76、北河内53.29、堺市46.92、大阪市西部45.93である。

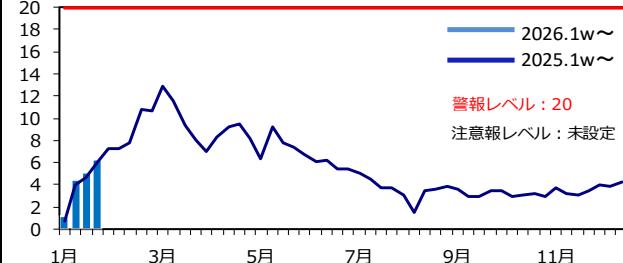
### インフルエンザ

(定点あたりの報告数)



### 感染性胃腸炎

(定点あたりの報告数)



※2025年第15週から、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年第4週1月19日～1月25日）

第4週の順位	第3週の順位	感染症	2026年第4週の定点あたり報告数	前週比増減	2025年第4週の定点あたり報告数	2026年第4週の年齢別患者発生数最大割合
1	1	感染性胃腸炎	6.28	23%増	6.05	10-14歳_12%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.88	32%増	1.51	5歳_14%
3	3	RSウイルス感染症	1.16	26%増	1.61	1歳_28%
4	7	水痘	0.47	89%増	0.14	10-14歳_22%
5	6	流行性角結膜炎	0.35	38%増	0.25	20歳以上_67%
参考		インフルエンザ (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	11.21	37%増	6.66	10-14歳_26%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.76	13%増	3.83	5-9歳_18%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	43.80	33%増	-	1-4歳_35%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

## 第4週のコメント

～細菌性赤痢～ 2022年以降、大阪府では、毎年1－4例、報告されている。

